

# 青年部情報

名寄市職労青年部

VOL. 12 2016年 3月 28日

## 政治を考えることは「市政」を考えること

～マチに対する夢・希望 ありますか～

## 2016年度自治労北海道本部青年部政治集会

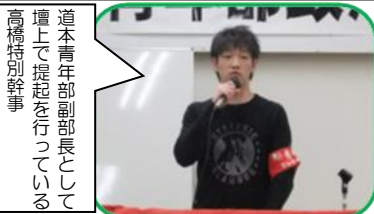
2月27日に札幌市・自治労会館で「自治労北海道本部青年部政治集会」が開催され、名寄市職労青年部から荒井部長、神田副部長、亀田副部長、仁尾書記長が参加しました。また、運営として高橋特別幹事（道本部青年部副部長）、堂前特別幹事（道本部青年部幹事）も参加してきています。全体では61単組・総支部107人（うち女性20人）が参加し、政治に関する学習、交流を行いました。



▲講演を行う石上総合政治政策局長

「政治闘争はなぜ必要か」と題し、自治労本部総合政治政策局長の石上さん（富良野市労連出身）から講演を頂きました。講演では「政策」は国やマチをどうしていきたいか、という夢や希望をかなえるための手法であり、選挙により民意に選ばれた首長が掲げる政策は正しさを帯びる。自治体で主体的な目標を持ち、真面目に働く公務員であればあるほど、政治を考え、政治闘争に関わっていくことになるのではないかと話があり、自治体職員として政治を考える、ということの必要性を学びました。

講演を受けた後の分散会で、市議会議員も参加し、職場や生活と政治のつながりを確認



道本青年部副部長として壇上で提起を行っている高橋特別幹事



講演中に発言を求められ座長としてマイクを取る堂前特別幹事

し、希望するマチづくりのため、どのような政策を実現し、そのためにはどのような運動が必要であるかについて討論や意見交換を行いました。仲間からは「講演を受け、社長（首長）を選挙で決めることのできるのには地方公務員だけという話に感心した。一方で、立場として公平性を欠くことに抵抗がある」という意見が出た。「自治体職員は住民が求めていることを直接知る機会が多いため、政治に関心を向ける必要があると感じた」「議員の方が、地域をよくしていきたいという思いで政治の場に出た」という話を直接聞き、あのような方が議員だと思いを託してみたくなる」といった声がありました。

分散会終了後は自治労組織内議員である、えさきたかし参議院議員が到着し、国政報告や歴史的展開を説明した上で「地方地域の働く者の心意気を見せつけ、政治を変えていこう」との呼びかけがありました



▲挨拶を行うえさきたかし参議院議員

### スープカレー ヒリヒリ2号



集會会場・自治労会館ほど近くのスープカレー店。スパイシーかつさっぱりとしたスープに、器からはみ出そうなほど大きく食べ応えある具材が並んでいる。味も食べごたえも◎。ただ、ライス少なめは本当に少なめなので注意！

スープカレー ヒリヒリ2号  
札幌市北区北6条西6-1-1 WEST61F

ミニコーナー  
ぶちグルメ紀行

Vol. 2

意外とよく聞く言葉で「亜種」というものがありますが「生物の分類で、独立の種とはしがたいが、同種とも言い得るものを亜種として分類する場合がある」という、割とがちつとしない印象を感じる用語。ただ、キタキツネは狐の亜種、と、亜種は亜種としての確立された、ワンダフルなアイデンティティがあるのも事実。そう、一見、最近見たような構造のこの教宣紙にだって……